

Servas Japan Tohoku



支部ニュース

No. 89



1	支部総会報告	
2	受け入れ報告	
	MS (仙台市)	2
	TS (新潟市)	4
	TY (米澤市) トラベラー受け入れが地元紙に	7
	寄稿1 震災から6年目を迎えて : TT	8
	寄稿2 Mからの近況報告 : CN	10
	寄稿3 英語学習会について : NT	12
3	Kさんコンサートスケジュール	12
	事務局から	14

TOHOKU

1 支部総会開催

平成 28 年度の支部総会が以下の通り開催されました。総会の報告については既に支部長からメールで送付済みです。

日時 : 5 月 28 日 (土) 14 : 00 ~ 19 : 30

場所 : 白石市 M 山小屋

報告事項・議題

- (1) S 開催国内会議報告について 支部長
- (2) 2015 年度事業と決算報告について M 会計担当
- (3) 2016 年度事業について—各県一人の広報部長とホストコーディネーター設置について
- (4) 総会後の支部ニュース発行について 副支部長
- (5) 役員改選と今後の支部のあり方について

交換会

- (1) メーリングリスト、フェースブック活用について
- (2) 民泊について

懇親会

20 時より夕食、懇親会、21 時まで 飲み物持ち込み可

なお、出席者は以下の 7 名の方々でした。

T ご夫妻 M H、N T、T Y、T N、T S

2 受け入れ報告

会員 M S

(1) オランダ Mrs. M H & Mr. H N 4 月 21 日～4 月 23 日

60 代のオランダからのトラベラーです。サーバス・トラベラーは私に毎回大きな驚きと感銘を与えてくれます。彼らもその例外ではありませんでした。

今回の彼らの旅は私の想像の範囲をはるかに超えた 7 ヶ月間の壮大旅だったのです。まずオランダからトヨタ・キャンピングカーを日本に送り、九州から北海道まで日本各地を陸路で愛車を運転して回ったり、時には新幹線も利用したり、また日本のフェリーを使ったりと実に綿密な計画を立てての旅でした。その証拠に車の屋根にソーラー・パネルが貼ってあって車中には冷蔵庫もしっかりと完備していた。日本のサーバス会員の受け入れが不可能だったときには、車中泊ができるからだと愛車の便利さを説明してくれた。



旅慣れている彼らの生き方に納得した 3 日間でした。

そんな彼らの綿密な準備にもかかわらず、想定外のことが起きるかもしれません。彼らが九州の熊本のサーバス・トラベラー宅を後にした 2 日後に熊本地震が起きたことでした。防ぎようのない自然災害の中、彼らをホストした熊本のサーバス会員宅も彼らも無事であったそうです。本当に心配をしました

ご主人の H は 2 歳の時に小児マヒに罹り、現在も歩行がかなり困難なこともあって移動手段として車が非常に便利だと言っていました。身体にたとえ障害があっても自宅の窓からのみ「世界を見て生きるのは嫌だった」と言った彼のことは、深く私のこころに残っている。奥さんの M は助産師の仕事をしていて気働きができ、身体に障害のあるご主人の良きパートナーだと感心をした。

もう一つ新しい知識として知ったことは「ゲゲゲの鬼太郎」で有名になった鳥取県・境港を彼らがどうして日本での最後の滞在地に決めたかである。境港からのみロシアのウラジオストック港に行きのフェリー便があるのだそう。私は50年前の20歳の時に中国四国地方を旅して境港にも行ったことがある。50年前の私には境港は小さくて静かな漁村の港としかなく格別に強い印象がなかった。



しかし彼らの旅の計画を見せてもらっているうちその当時の旅のことが走馬燈のように私の脳裏に浮かんできたのが不思議なことだった。その当時、サーバスのことは全く何も知らなかった私だったが、その後にはサーバス・トラベラーとして初めての海外サーバス体験をアメリカですることになるのだから人生は面白いものだと思つづく。

彼らはウラジオストックから6ヶ月かけて陸路をキャンピングカーの愛車で走り、オランダに帰国の予定となっている。今頃はどこの国を、どんな街を走っているのだろうか。

会員 M S

(2) オーストラリア P M 65歳 カソリック神父

3月4日～3月6日

カソリック神父のPと出会ったのが約40年前、近所の市民センターで偶然出会って私の方から声をかけました。サーバス関東支部に入会をしたばかりの私には外国人と交流を持ちたいという思いがとても強くありました。しかし当時、私は神奈川県・藤沢の辺鄙な田舎に住んでいて、外国人に接する機会はありませんでした。Pもまだ若く、教会の信者の方々から「P神父さま」と呼ばれること



に慣れず「私は神の父ではない」と日本語の神父の呼び名に抵抗も感じていた頃でした。そんなPとの出会いから今までずっと友人関係は続いていて、仙台の我が家にも時々訪ねてくれます。来仙の折りは必ず何かテーマを持って来るのが彼の訪問スタイルです。神父という職業柄、結婚は禁止されているのでサーバスの会員になる事はとても難しいですが「サーバスの精神」はキリスト教に準じていると言って、ずっと良き理解者です。今回も私たち夫婦がサーバス会員をずっと継続していることを心から喜んでくれました。



ポールの今回の来仙の目的は「遺伝子組み換え食品の禁止」に関するセミナーへの参加でした。遺伝子組み換え大豆など、我々の身近な食品摂取の怖さについては随分と騒がれた時がありました。現代は食品の安全性に以前よりも無関心になってしまったのか、話題に取り上げられることが少なくなりましたが。ありがたいことに神父の職業を超えて彼は私たちの食の安全のために日夜勉強を続けています。改めて食の安全性に目を光らせて

いないといけないことが分かった彼との 3 日間でした。　トラベラーを引き受けの時の食事に気を付けることは我々自身の健康にも繋がることを再認識させられました。

もうだいぶ前になりますが、「韓国人の指紋問題」を覚えていますか。　P も韓国人が来日の時、なぜ空港で指紋を取られるのかと疑問を感じ、大きな運動を起こしました。長い間彼は闘って「指紋の廃止」に成功させたときの功労者の一人です。サーバスに関わっているいろいろな分野で活動をする人たちに会えて、前に、前にと前進していける人生に感謝です。

会員　T S

本年 3 月で 2 度目の職場も終わり、4 月からはまだ仕事が残っているが以前よりは時間を持てるようになったので、何年ぶりかでトラベラー受け入れを始めた。4 月にメールが 3 通来た。デンマーク、イスラエル、それにオランダからであった。そのうちイスラエルのトラベラーは受け入れ直前になり、日程の都合が悪くなり、デンマークとオランダのサーバスを受け入れることになった。以下はその報告書である。

(1) R S　デンマーク　男性　24 歳　　5 月 2 日～5 月 4 日

R 君はコペンハーゲンからの 24 歳の青年だった。日本を 3 週間で旅行する予定だった。待ち合わせ時間に家の近くの駅へ行ったが電車から降りて来なかった。時間が間違っと思い、次の電車到着時に駅へ行ったがそれでも現れない。1 時間遅れかと思い 1 時間後駅に行ったら彼は駅の前で待っていた。どうしたのかと聞いたら間違っって新潟駅で反対方面に行ったとのことであった。

R 君は人と会って話をするのが大好きな青年で自閉症の人たちの社会復帰を手助けしている NGO で働いている。彼と話していたとき彼は何度も「オーティズム」と言った。最初私はその意味が理解できず、辞書で調べ、その語が「自閉症」であることを知った。聞いてみると R 君の弟（彼は 2 メートル近くの身長だそうだ）が自閉症で、お父さんが自閉症の息子さんの社会復帰を助けるために財団を立ち上げたという。デンマークの他に今はアメリカにも財団の支部をもち、オーストラリアにも進出すると言っていた。インターネットで“autism, sonne”から財団についての詳細を知ることが出来る。以下はインターネットからの R 君の父のプロフィールである。

T S

Chairman, Specialist People Foundation
Created with Sketch.

BIOGRAPHY

T S is founder of the not-for-profit Specialist People Foundation, which owns the For-Profit Specialisterne founded in 2004 to make a future for his son, who was diagnosed with autism at the age of three. S has a background in IT and as chair of a local autism organisation. S has been honoured with the Autism Prize 2004 by Autism Denmark and IT Prize by The Danish IT Industry Association. He was also named 'Brave Thinkers' by The Atlantic Magazine and 'Intelligent Optimist' by Ode Magazine.



父は息子さんの記憶力と細かなことを見る眼があることに気づき、息子さんの社会復帰を目指し、財団を設立したと言う。私は自閉症の人たちの社会復帰についてはあまりよくわからないが、ネットで調べたら日本での自閉症の人たちの社会復帰についてはいろいろと活動がある。R君は夏からコペンハーゲンのビジネス・スクールの大学院で勉強すると言っていた。若いだけに何でも良く食べた。非常に清潔感あふれる好青年でたまたま来た娘は映画スターのようだと言っていた。新潟から広島へ行く予定だったがホテルが取れず、大阪の簡易ホテルに宿を取り、日帰りで広島へ行くと言っていた。JRのパスは1週間だけのもので、パスが切れたらどうするか聞いたところヒッチハイクで日本を回ると言っていた。大阪からは松本（長野）までヒッチハイクである。我が家にいる間どこにも連れていかなかった。ただおしゃべりをし、あとはくつろいでいた。2日目の夜たまたまNHKでコペンハーゲンの旅番組があり、彼はなつかしように市内の映像を見ていた。

(2) N K オランダ 54歳 会社員 6月21日～23日

Nさんからメールが来たのは5月であった。非常に丁寧な文面で、日本では初対面の人を呼ぶときにどう呼んだらいいかと質問された。当初6月23日から25日まで新潟に来たいと言ってきたが、日程が変わり21日から23日までの滞在であった。Nさんは3年前にサーバスに入り、アメリカを4週間、フランスを3週間サーバスで旅行している。Nさんは観光には全く関心がなく、ひたすら人と会って話をし、訪れる国の文化に触れ、文化を知ることがを旅の目的としている。京都や奈良は日本の古都で素晴らしいから“must”だねと言っても全然行く気はなかった。Nさんは機械工学を勉強し、後にマーケティングに転向し、ドイツの炭鉱で鉱山技師として働き、随分とお金を稼いだと言っていた。その後ガラス産業の生産マネージャーを務め週末と夜間にアルバイトとして消防士を4年間している。若いときに家を買って、早くローンを返したので、今はパートでも十分だそうだ。Nさんの旅行日程表を見たら日本での4週間はすべてサーバス滞在であった。メールを出したが返事が

来なくて困ったとも言っていた。その日程表には日本の様々な文化が書かれ、剣道、柔道、空手、囲碁、カラオケ、生け花、茶道、食事、パチンコ等実に多くのことを体験したいと言っていた。私の友人に囲碁の好きな人がいて彼が公民館で囲碁をしているのを見せに連れていった。そこにはカラオケもあり、彼は“ホテル・カルフォーニア”を歌った。海を見たいというので家から近い日本海に連れて行った。その日は梅雨の合間の快晴の日で、青空が目にしみるほどであった。我々が言った海岸は夏には海水浴場となるのだが、いまはまだ水温は低くしかも平日なので誰も人はいない。閑散とした海岸を見て彼はオランダだったらこのような場所は人で一杯になると言う。彼も泳ぎたいと言っていた。たまたま町内の知り合いが釣りをしている彼も釣りに挑戦し、何匹か小魚を釣った。

Nさんはヨーロッパ人にしてはめずらしくコーヒーが全く飲めず、お茶もだめだった。コーラとかソフトドリンクだけであった。オランダの家はドイツまで車で10分だそうでよく食事にドイツへ行くそうだ。パリまでは車で3時間、陸続きのヨーロッパならである。彼の書く英語は素晴らしく、語学は堪能である。英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語を話す。オランダ人は外国語には強い国民であるが、普通の人でも4か国語を話せるなんて日本人にはとてもまねができない。生活環境のなかで自然に外国語を習得している。外国語は眼からではなく耳から学ぶべきだと言う人がいるが、まさにその通りである。Nさんは新潟からNさん(F市)宅へ行ったが、新幹線を使うと景色も見れず、退屈だからということで会津若松経由で行くことにした。6月24日は私も朝早くから仕事があり、朝食も食べる時間がなかった。おにぎりを用意し、急いで駅まで送ることになった。

〔寄稿1〕 震災から6年目を迎えて

T N

時折、「震災アーカイブ」として震災時の映像がテレビから流れてきます。見るたびに、忘れかけていた被災地のことを思い出します。次に来るかもしれない大地震の対策として「防災」が話題にもなっていますが、いくら考えても「防災」の取り上げ方に違和感を感じます。

「防災」の話題は、行政が市民や市民の財産を守るために行う施設・設備の保全に関わる計画などがほとんどのように思えます。これに対し、「個人」にとって「防災」となると、避難するときの「防災頭巾」をかぶることといった話になります。これはこれで「防災」と言えなくはないが、このままだと「防災頭巾」や懐中電灯などの「防災グッズ」を手許に置くことが「防災」となってしまうはしないだろうかという疑問があるのです。

マスコミも防災計画や防災教育と言葉を操りはしているものの、何事も「商業ベース」と「学問的興味ベース」に終始していて、防災グッズの研究開発・販売促進と、学問の対象としての領域の保全・・・まさに会議を楽しむ世界である。大人は、この曖昧な世界が

何よりも好きなのだ。何しろこれらの「研究対象」は災害が起こったあとの「結果」が必要なのです。

農業の世界を見てみると、農家が自分の田畑について栽培の計画を立て、種を蒔き、追肥をほどこして、収穫するが、そのほとんどの知識や理論は学者が研究し開発したのではなく農家自身が考え出した理論により実践されているのです。人々の生き方のほとんどは学者が指針を提供しているのではなく、人々が考え、試行錯誤し経験したことにより編み出されているからなのです。

3月11日以降、被災地を訪れ、防潮堤の高さや、地盤沈下により生まれた湿地の生態系や集団移転の街づくりなどについて、自分の研究を活かせることを期待した学者は数多くいました。しかし6年後の今、そのアイデアが100%活かされている被災地は少なく、それどころか地域住民から拒否され途中で引き上げた学者たちが被災地にモザイク状に残した足跡は数多く、このことが被災地へ及ぼす影響が心配されましたが、集団移転や災害公営住宅での生活が自分のものとなってくれば、時間によって淘汰されたり、意図して忘れられてしまうでしょう。

「防災」という言葉は、我々がいつ来るかわからない災害に意図的に取り組む上では有効なように思えますが、災害後の数年で雲散霧消してしまうような「物語」になってしまう危険性を含んでいると思われてならないのです。

その時は、急に予告なくやってきます。人によっては台所にいたり、介護途中であったり、運転途中であったりとさまざまです。そんな時のことを「防災計画」として立てるのでしょうか。通帳とか印鑑とか仕事の書類などを保管したカバンを家に取りに戻って津波にのまれた人がいます。後ろから津波が襲ってくるのを高台から大声で叫んで知らせようとしますが、後ろを振り返っても本人に津波が見えていないのです。避難を呼びかけて誘導していて津波に吞まれた警察官や消防士が多くいました。「防災」の計画ができれば、以後このようなことは起きないのでしょうか？

4月2日から訪問していたKのK小学校に、建てられた石碑に「てんでんこに逃げよ」と刻まれています。

この地区では昔から、「地震があったら津波は来る。その時が来たら少しでも高いところを目指して、てんでに逃げろ」と教えてきたそうです。「防災」という大きな物語を編集するより簡単明瞭で、幼い小学生にもわかりやすい「教え」であると思います。これを見る度に、もしも私に「その時」がきたらあまり多くのことは出来ないだろうとあきらめることにしています。津波に近い家に戻るのか、家を捨てて少しでも高台を目指すのかを一瞬にして判断しなければならないのです。しかもそれは一生に一度しかないくらい大きなものになるのだろうと。

何しろ防潮堤の高さが14mにもなったので、工事が完了してからでないで付属道路が整備されず「水仙ロード」が復活できなくなりました。その完成がまだ2~3年はかかるとい

うのです。それでもこの地区は完成年度に近いほうなのです。この6年の間に地域の中学校・小学校の廃校と統合が計画され、人口が少なくなれば災害を記憶する人々の数も減っていくことが危惧されています。

9月には、集団移転をした地域の道路端に水仙を植える予定です。皆様からお寄せいただいた水仙は、現在自宅の畑で掘り上げ乾燥して気仙沼に運ぶ手筈を整えております。当初の予定場所を変更して集団移転住宅地の周辺を特定し下見も終わりました。

球根や種は蒔いておきさえすれば、季節が来て花をつけます。種を蒔いたり球根を植えないければ“花は咲く”ことはないのです。自宅の畑で養生してきた水仙は見事なくらい大きな花をつけております。今年、球根を植えることで来年の春に一斉に花をつけるはずで、そのときに球根をお寄せいただいた皆様の気持ちが「新しい記憶」として伝わることを思っています。

〔寄稿 2〕 JICA 青年海外協力隊としてマレーシアに派遣されて

C N (マレーシア S 州在住)

昨年の6月最終日にマレーシアの首都クアラ・ Lumpur (地元では KL の愛称で親しまれています。) に到着し、一ヶ月間マレーシア語の授業を受けました。F 県の N 市にある研修所である程度のもを学んでいましたが、7月から本格的に任地で仕事を始めるための集中講義です。

ところが、S 州の州都であるクチン (地図でいう最も左側の空港のマークのところ。) に引っ越してから、地元の人が何を話しているのか全く分かりませんでした。それもそのはず、実は私がそれまで学んだのはマレーシア語 (マレー系民族が話すマレー語のことです。) だったのですが、サラワク州にはたくさんの民族が住んでいるので、異なる民族とコミュニケーションを取るためにサラワク語が話されているのです。言葉が分からなかったり、働き方が日本人と違ったりしてコミュニケーションの面で多くの課題がありました。が、少しずつ慣れて仕事をしようと努めました。

リサイクルを通して自然を守ろう

私が職場であるサラワク州立図書館で期待されていたのは、地元の人が図書館にもっと足を運びたいような魅力的なアクティビティを企画することでした。マレーシア人は楽しいことがとても好きなのです。赴任した当初は、子ども向けの日本文化紹介のアクティビティをするように頼まれました。マレーシアはとても美しい自然に恵まれているのに、町のあちこちにゴミが散乱しており悲しい気持ちになります。そこで、子どもたちが環境について興味を持ってもらうこと、いつも捨てているものでも工夫次第で新しいものに生

まれ変わることを伝えようトリサイクルをテーマにしたアクティビティを実施しました。
実際に行ったのは、古新聞紙を使った

かぶと作り、ボタンを利用したおはじき遊び、仕事に出た色紙の切れ端を使った花笠作成と花笠音頭、料理する際に出る植物の皮を利用した草木染などです。図書館の子ども部屋で行ったり、図書館から遠くの学校で行ったりしました。東北の踊りの一つ、私の故郷の山形の花笠音頭が異国で行われていることを想像してみてください。思わず微笑んでしまいませんか？

田舎の子どもも学びたくてたまらない！

S州には、奥地にたくさんのカンポン（マレーシア語で「田舎」「村」の意味です。）があるがあります。カンポンに住んでいると、大きな町に出てくるのが困難です。子どもたちは、学校に通うことが困難なので小学生になると寄宿舎に住んで日常のことを自分でしたりすることもあります。図書館でアクティビティをして図書館に来てもらうようにすることももちろんですが、図書簡易こられないような人の元に情報を届けることも図書館の大変大切な仕事の一つです。私も幸運なことに、一週間ほど複数のカンポンを巡回して様々な講義やアクティビティをするキャラバンに参加させてもらうことができました。最初の地図でいうと、東側にミリという大きな都市があるのですが、その周辺のカンポンに行き日本文化紹介のアクティビティをしてきました。クチンから飛行機でミリに移動し、そこから4×4というオフロードの運転に耐えられる車で4時間ほどいったところでホームステイをしました。S州にはサーバス会員はいませんが、ホームステイプログラムはたくさんあります。カンポンノ伝統的な家に宿泊することそのものがアクティビティとして捉えられているので、ある意味で観光業の一つなのです。S州の人は民族の違う人や外国人に対してもとてもフレンドリーです。そして、写真のようにおもてなしのイベントもしてくれます。これはクアラ・シブティというカンポンに住むムラナオ族のおもてなしの踊りです。この時にかぶと作りをしました。子どもたちは外国人である私との出会いに恥ずかしがることはほとんどなく、なついてきて楽しそうに活動してくれました。子どもたちは新しいことを学ぶのが大好きなのです。この子どもの瞳の輝きは、日本でもマレーシアでもどこでも一緒。この笑顔のために仕事をしているんだな、とこちらが嬉しく幸せになります。今後も笑顔を広げるために活動を頑張ります。

[寄稿 3] 英語の学習をしませんか！

Fサーバス会員 NT

—エイゴでせかいにはばたきましょう。サーバスに入ればエイゴに強くなる！—

第一クラス

ところ：F 駅東口ビル 4F 自由学習広場

い つ：毎週月曜日 9：00～11：00AM (駐車場 2 時間無料)

第二クラス

ところ：F 市 H 町 旧 H 幼稚園

い つ：毎月第 4 水曜日 10：00～12：00AM (駐車場有)

※もちろん両クラスとも無料です。

サーバス英語学習へのお誘い！

ところ：F 市 H 町 F 市立旧 H 幼稚園

い つ：2016 年 9 月 22 日 (木) 10：30～12：00AM

内 容：(1) サーバス・トラベラー受け入れの際の英語

(2) トラベラー受け入れからトラベラーとして海外へ行く

(3) 自己紹介・自由なプレゼン！etc.

主 催：Fサーバス会員

〒960-8157 F 市 H 町

N T (特別通訳案内士)

3 Kさんの4月のコンサート・スケジュール

精力的に音楽活動を続けている Kさんの4月のスケジュールを紹介します。

4月1日(金)20:00

『Hideaway 1周年記念』

Hideaway

S市K町2

Sビル 6F

4月3日(日)15:30

島村楽器利府イオン店

4月9日(土) 21:00 / 23:00 / 25:00

club EVER

S市K町Yビル3F

4月16日(土)open 19:00 / start 20:00

『GOKURAKU-NIGHT』

Club South BBC

T県A市E町

【入場】1500円 (1ドリンク)

【出演】

① 20:00 - 20:30 The GangLions

② 20:45 - 21:15 リボルバー

③ 21:30 - 22:00 重兵衛

④ 22:15 - 22:45 BISUI

SP GUEST

⑤ 23:00 - 23:45 Duck Tetsuya

⑥ 24:00 - 24:30 じゃも〜んず

4月17日(日)15:30

Ai イベントに出演!

K公園S銅像前

4月22(金)20:30

『Duck The Night』

CHOP-ONZ

S市K町

【入場】1000円

【出演】Gorgeous Bathroom / O H / N A / 危険な関係 / D

T & ダック ザ ファミリー

4月23日(土)

HARISUN☀️CAFE

M県T市

【出演】NM / D T

4月30日(土) 昼間

『Kストリートフェスイベント』に出演!

4月30日(土)19:30

『Flat Top Family 定例会!』

ロックンロールナイト♪

Live House REMEMBER

S市K町

【入場】1800円(お通し付)

【出場】D T / The Tips

[編集後記]

支部ニュース発行が遅れましたが、ようやく発行の運びとなりました。5月末の支部総会会場はTさんが共同管理するロッジでした。30年前にも支部総会を開催しました。山の中腹にあるロッジで、以前はロッジの前に牧場が見えましたが今は木が大きくなり牧場は見えませんでした。当日と翌日は天候に恵まれ、すっきりした気持ちで帰宅しました。帰りにF山に衝突したアメリカのB29の記念碑がありました。3機が衝突し、30名以上の若いアメリカ人が亡くなった戦時中の出来事です。先日NHKで式典の様子が放映されていました。国同士の戦いの最中に個人が個人を救出する戦争の不条理を思い起こされました。いまなお戦争やテロのニュースが飛び込んできますが、平和の意味をじっくり考える必要があります。サーバスの原点は世界の人々との相互理解を通しての世界平和に寄与することを第一の目標にしています。会員の皆様のご協力に感謝します。[文責：TS]